

教育的価値	具体の項目	教育課程
3【そなえる】	⑮東日本大震災の様子と被害の状況 ⑳学校・家庭・地域での日頃の備え ㉑仲間や地域の人々とのつながり 大震災の様子と被害状況について理解し、学校や家庭で出来る防災対策について考え、日頃から地域の方々のつながりを大切にする心情を育てる。	総合的な学習 学級活動

(題材1) ○ H23,3,11の東日本大震災の時の被害の大きかった地域の様子を学ぶ。

対象・・・全校児童 ⑮

(題材2) ○ 老人福祉センターを訪問し、歌や踊りを披露する。

対象・・・1～3年 ⑨

(題材3) ○ 震災学習列車に乗り、車窓から被災地、復興の現状を見学し説明を頂く。

対象・・・全校児童 ⑮

(題材4) ○ どんな災害があるか調べ、命を守る方法を調べる学習をする。

対象・・・3年生 ⑳

(復興教育の視点)

生々しい被災地の現状と復興の様子を確認し、これからの自分の生き方を見つめ直すこと。地域との絆の大切さを知ること。

(実際の概要)

(題材1) 大震災で亡くなった方への追悼と3,11を考える会の開催

3.11の災害の様子をVTRで見たり、話を聞いたり、また被害の大きかった小学校から提供して頂いた資料を提示したり、その子どもたちが作った歌を聴き、災害の甚大さとそれにも負けないで生きている子どもたちの存在を知ることのより、被災の概要をつかむ機会とする。また、今後も3,11を忘れず、復興への意識を培う機会とする。

(題材2) 老人福祉センター訪問

老人福祉センターを訪問し、お年寄りや体の不自由な方に踊りや歌を披露し、交流することにより、地域とのつながりを実感し絆を深める機会とする。

(題材3) 三陸鉄道震災学習列車に乗って

三陸鉄道震災学習列車に乗って、久慈～田野畑駅間を車窓から眺め、駅員さんの説明を聞くことにより、被災や復興の様子を学ぶ。

(題材4) 授業実践 3年 総合的な学習「守ろう命、大切にしよう絆」

災害の種類や起こり方、状況に応じての避難方法を知ることを通して、災害に備えて準備するものや命を守る方法を考える機会とする。

(実践の詳細)

(題材1) 大震災で亡くなった方への追悼と3.11を考える会の開催について

- 1 日時 平成25年3月11日(月) 14:20~15:00
- 2 会場 音楽室
- 3 内容 進行 教務
 - ① 開会の言葉 副校長
 - ② VTRと校長先生のお話
 - ③ 14:46 黙祷 1分間
 - ④ お話の続き
 - ⑤ 閉会の言葉 副校長



< 黙祷 >

被害の甚大だった沿岸地方の小学校から頂いた様々な資料や、その学校の子どもたちが作った歌のCDをもとに校長が作成したVTRを見たり、話を聞いたりして学習会をし、大震災の被害の大きさを学んだ。初めて見た、今まで知らなかったという児童が多く、改めて震災の被害の甚大さに驚いたようだった。最後にその学校の子どもたちが作った歌を聴いたが、涙する子どもや職員もいた。次年度からの復興教育のためにも、せめてこの3,11の日は大切にしたい。

<子どもの感想>

あの大地震で沿岸の方は大変なひがいだと聞いても、九戸村は何ともなかったから、今日校長先生のお話を聞いたり、ビデオを見たりするまで、こんなにひどかったなんて知りませんでした。すごかったんだなあとびっくりしました。そして、船越小学校の子どもたちはどんなにこわかったんだろうと思いました。ぼくだったら、泣いて泣いてわけが分からなくなってしまったと思います。でも、船越小の子どもたちは、不便な校舎で勉強しながらもみんなで歌を作ってこれからがんばっていこうとしているので、ぼくも負けないでがんばらなくてはと思いました。たくさんの人たちが亡くなって、本当にかわいそうだと思いました。2時46分にもくとうをしたとき、涙が出そうになりました。4年男子

(題材2) 老人福祉センター訪問

- 1 日時 平成25年6月6日(木)
 - 10:45~11:30
- 2 場所 九戸村老人福祉センター
- 3 内容
 - ① はじめのことば
 - ② 踊りと歌の披露
 - ③ 子ども達の自己紹介
 - ④ 利用者との交流
 - ⑤ おわりのことば



福祉センターで踊ったり、自己紹介をしたりして交流しました。

運動会で躍った踊りや歌を披露しそのあと、誰の孫か等をふくめた自己紹介を一人一人行った。踊りに歌に目を細めてくださったのはもちろんだが、〇〇の孫です。おばあちゃんの名前は〇〇です。という声に、「ほう」「ああ」という言葉が聞かれ、子どもたちに親近感をもったようだった。地域の方々とふれあいを深めることができた訪問だった。

<子どもの感想>

きょう、ふくしセンターに歩いて行って、うんどう会でおどったおどりをデーサービスにきているおばあちゃんやおじいちゃんにみてもらいました。うちのおばあちゃんも、見に来ていました。どのおばあちゃんもおじいちゃんもにこにこしてくれました。わたしは、はりきっておどりました。

おどりおわって、じこしょうかいをすることになって、みんながつぎつぎと「ぼくの名前は〇〇〇で、おばあちゃんの名前は△△△です」と大きな声ではりきって言いました。そのたびに、「ああ、なにになにさんこのまごだなあ」とか、「ほう、ずいぶんおおきくなったごと」とかおばあちゃんたちがいつているのが聞こえてきました。わたしのばんになった時、おばあちゃんの方をちらっと見たら、おばあちゃんはにこにことうれしそうにしていました。そのあと、ばあちゃんたちとあくしゅをしてかえりました。わたしたちのおどりやうたでよろこんでくれて、うれしかったです。これで、おばあちゃんたちがげんきになってくれるとうれしいです。道であったら「こんにちは」ってあいさつをしたいとおもいました。また、行きたいです。(2年女子)

(題材3) 三陸鉄道震災学習列車に乗って

- 1 日時 平成 25 年 10 月 29 日 (火) 8 : 1 0 発
8 : 1 0 (村のバス) 戸田小学校発 → 9 : 1 0 久慈駅着 → 9 : 2 0 (震災学習列車) 久慈駅発 → 1 0 : 3 0 田野畑駅着 → 1 0 : 4 5 (村のバス) 田野畑駅発 → 1 2 : 4 5 戸田小着

- 2 内容 久慈駅から田野畑駅の間、三陸鉄道震災学習列車に乗って、被災地の見学をした。2 車両が貸切で、1 両目には高学年 39 名が乗り、2 両目に低学年 34 名が乗った。それぞれの車両で駅職員の方が、震災の爪痕と復興の様子について詳しく説明をして



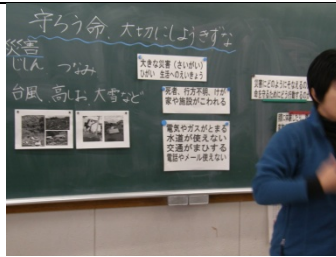
くださった。子どもを引きつける巧みな話術と熱心な語り口調に、子どもたちは最後まで集中していた。壊された防潮堤や住宅地、稼働中のがれき処理施設や高台移転の造成地など、実際に見える車窓からの眺めと写真パネルで見せて頂いた被災地の町の様子との大きな違いに子どもたちは大変驚いていた。子供達なりに震災の悲惨さを理解し、自分にできることは何かをあらためて考える機会となった。



<子どもの感想>

<橋上さんへ> さんりくてつどうにわたしは、はじめてのりました。トンネルの上までなみがくるなんてびっくりしました。トンネルの木がすごくたおれてて、ふえんすがぺっちゃんこでびっくりしました。かなり大きなみだつんだなあとおもいました。つなみのまえは木がびっしりあったのが、いまは、10 ぽんくらいで、木がすごくすくなくなっていました。10 かいのたかさのいえまでこわれてしまったことをはじめてしりました。とんねるにみずがはいったはなしをきいてしんぞうがドックンドクンしました。しんでしまったひとたちがかわいそうです。わたしはこれからやさしいこになろうとおもいます。あと、うちにかえってさっそくさけをたべました。これからも、もりもりたべます。はしかみさんのいったとおり、わたしにできることをします。いろんなことをおしえてくれてありがとうございます。きょうのことは、ずっとわすれません。(1年女子)

<二橋さんへ> 今日の震災学習は、話を聞くよりも、実際に見てみることで考えることがたくさんありました。私が一番驚いたのは、亡くなった人の人数でした。15800人以上の人が亡くなり、まだ、2000人以上の人が行方不明だということ。津波の高さが37, 8Mと聞いて、あの高さを超えたという機械室を実際に見てびっくりしました。地域の方のお話や、女子高生とお母さんの実話を聞いて、手をずっと離さないでいたかったのに、とお母さんが娘と変わってやりたかったと泣きながら話していたのを思い出して、本当に辛かったんだろうなと思いました。津波でんでんこのお話からは、「自分の命は自分で守る」という言葉が心に響きました。津波だけでなく他の身近な自然災害から逃げると言うことにもつながると思いました。三陸鉄道が4月に全面開通するということが、復興の大きな一歩として少しずつ元の町にもどっていけばと思います。(6年女子)



〔題材4〕 授業実践 3年 総合的な学習「守ろう命、大切にしよう絆」

1 日時 平成25年9月12日(木) 3校時

1 単元名	守ろう命、大切にしよう家族の絆
2 単元について	省 略
3 単元の目標	災害の種類や災害の起こり方、災害が起こったときの影響や状況に応じた避難方法などを知ることを通して、命を守るために、災害に備えた準備や避難方法を考え、実際に行動できる態度を育成するとともに、生活の基盤としての家族の絆を大切にできる心情を育てる。
4 単元の評価規準	<p>【課題を発見する力】 日常の防災に目を向け、自分の課題を設定することができる。</p> <p>【課題を探究する力】 課題について、主体的に調べようとする。</p> <p>【自分の考えを表現する力】 調べたことを発表することができる。</p> <p>【学んだことを生かす力】 学習したことを家庭や学校生活に生かすことができる。</p>



5 主な学習内容 (全20時間)

	学 習 活 動	学習活動に関する留意点
第1次 本時1時間	○課題を決め、調べる計画を立てる。 (1時間)	・災害の種類や、避難の仕方や備えについて。
第2次 14時間	○どんな災害があるか、災害が起こった場合の生活への影響などについて調べる。 (4時間) ○災害に備えるための準備を調べる。 (6時間) ○命を守る方法を調べる。(4時間)	・災害の種類とどんな所で発生するのか。 ・学校や家庭での避難方法 ・情報活用と伝達方法 ・家族の絆 ・命の大切さ、体を守る方法
第三次 5時間	○まとめ(3時間) ○発表(2時間)	

〔まとめ・取り組みを振り返って〕

被害のなかった地域に住む本校の子どもたちにとって、全校で震災学習列車に乗り、被災地の様子を共通理解することができたことは、今後の復興教育を推進する上でも大変有意義だった。その他の事例についても、子供の感想等に心の変容が見られることから、今後も復興教育をより計画的、組織的、具体的に継続して続けていく必要があるということを実感した。